

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 4 年 12 月 29 日 (18:00~20:00)

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 8 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0 人	1 人	5 人	2 人	8 人

前回の改善計画
 実際に家族と顔を合わせる機会が少なく、顔を合わせることがあってもどこまで掘り下げて話をいいのかわからないとの意見があった。今後、家族と顔をコミュニケーションが取れる機会 (交流会) などを計画し家族に対しての情報収集を行っていく。またアセスメントシートを活用し、本人の情報を収集し共有できるようにする。

前回の改善計画に対する取組み結果
 個々の職員が送迎時にしか顔を合わせる機会がなく、家族との関わりが薄かったとの意見があり。またアセスメントシートの活用もできておらず、本人の情報収集ができなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	0	8	0	0	8
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	0	7	0	1	8
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	1	5	1	1	8
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	1	3	3	1	8

できている点 200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
 新規利用者及び家族に対して、挨拶をしっかり行い、通いの利用時には少しでも早く慣れていただくように関わることにした。また、利用者情報に関しても、職員間で口頭ではあるが共有するようにしている。

できていない点 200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
 利用者の対応に関しては、積極的に行ったが、家族に対しての支援が不十分であった。家族に対しての利用者本人の情報収集も不十分であった。

次回までの具体的な改善計画 (200 字以内)
 個々の職員が知り得た情報についてはアセスメントシートを活用し、その都度情報を共有していく。また家族支援に関しては、送迎時は電話対応での話以外でも関わって話をする機会をつくり、家族にも積極的に情報収集を行っていく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 4 年 12 月 29 日 (18:00~20:00)

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)

メンバー 8 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	3 人	4 人	0 人	1 人	8 人

前回の改善計画
まずは、利用者本人にとって居心地のいい場所となるよう努力をする。その中で出てきた会話の中から具体的な目標を見つけ職員間で共有する。
前回の改善計画に対する取組み結果
利用者にとって居心地のいい空間となるよう、花を活けたり、落ち着いた空間作りをするように努めた。なるべく関わりを増やすようにした。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?	0	4	3	1	8
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	1	5	1	1	8
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	0	6	1	1	8
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	2	4	1	1	8

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
利用者との日常的な会話の中で本人の「したいこと」と思える言葉を各自が拾っていき、その言葉を記録に残し、職員間での共有を図ると同時に、可能な限り支援を行うようにしている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
利用者本人の目標設定及び実現が難しく感じる職員が多かった。また、職員間での口頭や記録での共有はできても、アセスメントシートを活用した全体共有が行えていない。利用者が増えることにより、個別に関わる時間が少なくなった。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
利用者より発したメッセージを各職員が拾い上げていき、アセスメントシートや記録を活用し情報共有を行っていく。また、個別に関わる時間を増やせるように、職員間での業務分担を行うようにする。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 4 年 12 月 29 日 (18:00~20:00)

3. 日常生活の支援

メンバー 8 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1人	3人	2人	2人	8人

前回の改善計画
アセスメントシートのサイズが小さく書き込みにくい。利用者基本情報と一緒に綴じてあり、シートが取り出しにくいという意見があった。アセスメントシートはA3サイズへ拡大し、別ファイルへまとめて綴じることで、情報へのアクセスのしやすさ、書き込みやすさの改善を図る。アセスメントシートを活用し知り得た情報を書き込んでいくよう職員全員で意味づけを行う。利用者の日々の気持ちを常日頃から考えるよう努力をする。
前回の改善計画に対する取組み結果
アセスメントシートのみファイルは作成したが、拡大をするまでに至らなかった。シートへの記入も殆どできていない。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?	0	1	6	1	8
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	4	2	1	1	8
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	1	5	1	1	8
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	2	5	0	1	8
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	2	5	0	1	8

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
	日々の関わりの中で、体調の変化や本人の気持ちの変化については、その都度ケース記録に残していき職員間での日常的な会話の中で共有するようにしている。

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
	利用者によってバラつきはあるが、「以前の暮らし方」について、10個以上把握できていない職員が多かった。また、アセスメントシートの書き込みが不十分であるため、利用者本人の声にならない声を完全に言語化できていない。

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
	利用者との関わる時間を個々で増やしていき、今後も関係性を深めていくように努める。また、以前の暮らし、今の暮らしと本人の生活を把握できるよう、小さな情報でも拾っていきけるよう努める。アセスメントシートを活用していくよう職員一人一人が心がけていく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 4 年 12 月 29 日 (18:00~20:00)

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 8 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0 人	1 人	5 人	2 人	8 人

前回の改善計画	送迎の際に挨拶をするなどして、利用者の家の周りにどんな方が住んでいるのか、どんな関わりがあるのかを職員が把握し、普段から関わりを持つようにし顔なじみの関係性ができるようにする。
前回の改善計画に対する取組み結果	送迎時、訪問時などの際に近隣住民に会った時には挨拶をするようにした。少しではあるが、顔なじみの関係もできている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?	0	5	1	2	8
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?	0	3	3	2	8
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	0	1	5	2	8
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	0	1	5	2	8

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
送迎や訪問時など近隣住民と会った際には積極的に挨拶するようにした。利用者本人の今の生活状況の把握は一部ではあるができている。休みの日の様子など聞いたことに関しては記録に残している。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
地域の民生委員や利用者を取り巻く地域の方との交流が殆どなかった。また自宅で過ごす時間にどのような生活を送っているのか、一部しか把握できていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
利用者を取り巻く地域住民とのコミュニケーションを行うように働きかけ、もう少し顔なじみの関係を作っていけるよう努力する。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 4 年 12 月 29 日 (18:00~20:00)

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 8 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	1 人	3 人	1 人	3 人	8 人

前回の改善計画	特に地域の資源を使って支援することに焦点をあて、利用者の地域資源がどこにあるのか、自宅を中心とした地図等をつくり、職員全員が利用者を取り巻く地域資源を把握できるようにする。
前回の改善計画に対する取組み結果	地域資源を活用することが殆どなく、また利用者の地域資源がどこにあるのかの地図が作成できず、地域資源の把握には至らなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	0	5	1	2	8
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	0	3	3	2	8
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができますか?	0	1	5	2	8
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	0	1	5	2	8

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること 「通い」「訪問」「宿泊」サービスの使い分けについてはニーズを踏まえた柔軟な対応を行えている。本人の変化に対しては、気づいたことがあれば都度記録に残すように努め、情報共有をしている。
--------	---

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること 利用者の変化に気づいても、日々の業務に追われ記録を残していない事もあった。また地域資源をきちんと把握しておらず、活用が殆どできていない。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内) 利用者全員の自宅を中心とし、その周りに何があるのか、地域資源があるのかどうかを把握できるように職員全員で地図を作成し、職員間で共有をする。
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 4 年 12 月 29 日 (18:00~20:00)

6. 連携・協働

メンバー 8 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0 人	1 人	1 人	6 人	8 人

前回の改善計画
今生まれている繋がりを大切に、途切れないよう働きかけを続ける。事業所内では簡単な勉強会を職員が集まるミーティングに合わせて開催し、小規模多機能型居宅介護事業所・地域包括支援センター・福祉用具事業所・医療機関などそれぞれの持つ役割、また連携の在り方について基礎的な理解の習得を目指す
前回の改善計画に対する取組み結果
昨年度生まれた繋がりに関しては、今でも途切れていない。事業所内での簡単な勉強会も数回ではあるが開催してきた。連携の在り方についての理解は、不十分である。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	その他のサービス機関 (医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所) との会議を行っていますか?	1	1	1	5	8
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?	0	0	1	7	8
③	地域の各種機関・団体 (自治会、町内会、婦人会、消防団等) の活動やイベントに参加していますか?	0	0	0	8	8
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?	0	0	0	8	8

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
	サービスに関する他事業所との連携は、一部の職員であるが取れている。また、事業所周辺の住民と顔なじみになれるよう挨拶はしている。

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
	コロナ禍であるため、地域でのイベント等の情報を把握していない。地域の方の事業所への来訪受け入れも現在行っていない。

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
	地域連携に関しての会議などに積極的に参加するように努力する。誰でも気軽に立ち寄れる事業所になれるよう目指していく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 4 年 12 月 29 日 (18:00~20:00)

7. 運営

メンバー 8 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1 人	1 人	2 人	4 人	8 人

前回の改善計画
開放された場所作りができるよう、気軽に地域住民と交流できる場の提供を行っていく。それと同時に家族に対しても、交流会などを開催するようにし意見などを拾っていける場所作りを行う。事業所のあり方についても来年度事業計画の策定と共有を行い、ミーティング等で確認しあえる場所を設け、その都度すり合わせをしていく。
前回の改善計画に対する取組み結果
コロナの影響もあり、地域住民と気軽に交流できる場及び、家族との交流会も実現できなかった。事業所の有り方については、職員間でその都度すり合わせを行った。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができているか?	1	4	2	1	8
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1	5	1	1	8
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1	4	0	3	8
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	0	0	5	3	8

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
	普段から職員間でのコミュニケーションは大事にしており、誰でも意見が言えるようなミーティングの場も設けている。

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
	事業計画の周知が不十分であった。地域との交流が殆どできていない。

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
	コロナ禍ではあるが、その中でも地域住民や家族との交流の機会の場を提供できるよう努める。常に職員間での意見交換ができるような職場作りをしていく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 4 年 12 月 29 日 (18:00~20:00)

8. 質を向上するための取組み

メンバー 8 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0 人	2 人	4 人	2 人	8 人

前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み結果
職員自身が自己研鑽できるよう心がけ、外部研修にも参加できる機会を設けていく。介助技術について、事業所内でスキルアップのための勉強会を開き、ケアの質の向上を目指す。	外部研修について把握する機会がなく、研修に参加できる機会が殆どなかった。介護技術に関しても勉強会を開くことができなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	研修 (職場内・職場外) を実施・参加していますか	0	4	3	1	8
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	0	1	4	3	8
③	地域連絡会に参加していますか	0	0	0	8	8
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	0	4	3	1	8

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
	法人内研修は全ての職員が参加をしている。利用者の行動に対して予測できるであろうリスクに対して常に考えた・

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
	地域連絡会には参加できていない。外部研修や自己研鑽の為の研修に積極的に参加できていない。ヒヤリハットの記録が少ない。

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
	コロナ禍ではあるが、オンラインなどを活用し外部研修や自己研鑽の為の研修に参加できる機会を設け、スキルアップの向上に各自取り組んでいく。リスクマネジメントについて日頃から意識を行う。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 4 年 12 月 29 日 (18:00~20:00)

9. 人権・プライバシー

メンバー 8 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0 人	0 人	1 人	7 人	8 人

前回の改善計画	今後、成年後見制度についての勉強会を事業所で行う。
前回の改善計画に対する取組み結果	成年後見制度についての勉強会を事業所内で開催することができなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	身体拘束をしていない	8	0	0	0	8
②	虐待は行われていない	8	0	0	0	8
③	プライバシーが守られている	5	3	0	0	8
④	必要な方に成年後見制度を活用している	0	0	0	8	8
⑤	適正な個人情報の管理ができている	4	3	0	1	8

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
何かを無理強いすることなく、無意味な施錠及び、身体的な拘束、スピーチロック等を行っていない。排泄ケア誘導時などは、大声を出すことなくプライバシーに配慮したサービスの提供を行っている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
女性用の下着を外に干している時があり、それを男性利用者が片付けようとされていることがあり不快感になることがあった。成年後見制度については、ほぼ全員の職員が勉強不足である。また、成年後見制度を必要とされる人もいないため活用はできていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
洗濯物の干す場所については、職員が配慮を各自行っていく。成年後見制度については、勉強会を開催できるようにする。	

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人砥部寿会	代表者	菅原哲雄	法人・事業所の特徴	「住み慣れた地域でその人らしい生活を送るための介護サービスを提供します」「多様化する生活ニーズに対応し、利用者とその家族を支えます」「多世代が集まる居場所となり地域住民と共に支え合います」を方針とし、自宅で生活をする利用者やその家族に寄り添い、「通い」「訪問」「泊り」を組み合わせたサービス提供を目指す事業所です。
事業所名	小規模多機能ホーム 砥部オレンジ荘	管理者	西岡佳代		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	1人	1人	0人	人	8人	人	14人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	家族と顔を合わせる機会が少なく情報収集が少なかったため、話ができる場を計画する。またアセスメントシートを活用し、知りえた情報を書き込んでいくよう職員全員で意識する。そして利用者の日々の気持ちを日頃から考えるようにする。	利用者の対応に関しては、積極的に行ったが、家族に対しての支援が不十分であった。家族に対しての利用者本人の情報収集も不十分であった。	コロナ禍での文章開催が殆どであり、実際に送られてきた自己評価表の数字だけでは中身が見えてこない。できていない方については、どういう理由でできていないのかわりたかった。	利用者本人の情報収集が依然と少なく、話ができる環境作りもできないため、少しでも家族を交えての話ができる場面提供を行うようにする。アセスメントシートも活用し、知り得た情報を職員全員で共有していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	利用者にとって、畑やプランターでの植物を見ることで季節を感じる工夫を行い、室内では、居心地のいい場所となるよう空間や環境整備を行っていく	利用者にとって居心地のいい空間となるよう、花を活けたり、落ち着いた空間作りをするように努めた。なるべく関わりを増やすようにした。	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ日中フロアは花を飾り絶やさないようにしている 畑を作り、季節の野菜を植えている 	利用者にとって、畑やウッドデッキを使ったプランターで花を育てる活動については、今後も行っていく。また、室内での居心地のいい空間作りについては、職員全員で模索をし、いろんな方が落ち着ける空間作りを目指していく。
C. 事業所と地域のかかわり	開放された場所作りができるよう、気軽に地域住民と交流できる場の提供を行う。	コロナの影響もあり、地域住民と気軽に交流できる場及び、家族との交流会も実現できなかった。事業所の有り方については、職員間でその都度すり合わせを行った。	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍であるため地域の方の受け入れ等を行えていない 	近隣住民と顔見知りになるなど、積極的に挨拶などを行い、ウッドデッキを使った活動など気軽に地域の方と交流できる場を作っていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	送迎の際に近隣住民に挨拶をするなどし、利用者の周りの家にどんな方が住んでいるのか、どんな関わりがあるのかを把握し、職員も顔なじみの関係性を作っていく。	送迎時、訪問時などの際に近隣住民に会った時には挨拶をするようにした。少しではあるが、顔なじみの関係もできている。	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員や地域の方との交流があまりない。 	近隣住民への挨拶は今後も続けていき、地域の方との関係性の構築を行っていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	書面開催の他、地域住民や運営推進会議に参加する方にも広報誌等で活動内容を発信していく。	広報誌や写真などで活動報告を行った。	書面ではあるが、写真などで活動報告をしているので、少しは活動内容が分かった。	広報誌を活用し、運営推進会議に参加される方や地域の方に向けて情報発信を行っていく。
F. 事業所の防災・災害対策	オレンジ荘の防災・災害計画及び、BCP計画を職員間で共有し、災害発生時に対応できるようにする。	年に二回の防災訓練には、各職員が出て行っている。	地域住民としても、防災訓練などに参加することは少ない。福祉避難所としても知らない人がいるのではないかと。	年に二回の防災訓練には、各職員が参加するようにし、オレンジ荘の防災・災害計画及びBCP計画を職員間で共有し、対応できるようにする。

